

	九州大学 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理学部（第1年次:277 第3年次:5） 大学院理学府（M:144 D:47） 大学院数理学府（M:54 D:20） 大学院システム生命科学府（D:54） 大学院システム情報科学府（M:140 D:45） 大学院総合理工学府（M:164 D:60） マス・フォア・インダストリ研究所 応用力学研究所 先導物質化学研究所
沿 革	昭和3（1928）年 九州帝国大学附属天草臨海実験所設置 昭和14（1939）年 九州帝国大学理学部設置 昭和17（1942）年 九州帝国大学流体工学研究所設置 昭和18（1943）年 九州帝国大学弾性工学研究所設置 昭和19（1944）年 九州帝国大学木材研究所設置 昭和24（1949）年 新制九州大学理学部設置 昭和24（1949）年 九州大学生産科学研究所設置 昭和26（1951）年 九州大学応用力学研究所設置 昭和28（1953）年 九州大学大学院理学研究科設置 昭和42（1967）年 九州大学理学部附属基礎情報学研究施設設置 昭和46（1971）年 九州大学理学部附属島原地震火山観測所設置 昭和54（1979）年 九州大学大学院総合理工学研究科設置 昭和62（1987）年 九州大学機能物質科学研究所設置 平成5（1993）年 九州大学有機化学基礎研究センター設置 平成6（1994）年 九州大学大学院数理学研究科設置 平成8（1996）年 九州大学大学院システム情報科学研究科設置 平成10（1998）年 九州大学大学院人間環境学府設置 平成12（2000）年 九州大学学府・研究院制度創設 平成12（2000）年 九州大学大学院理学府設置 平成12（2000）年 九州大学大学院数理学府設置 平成12（2000）年 九州大学大学院システム情報科学府設置 平成12（2000）年 九州大学大学院総合理工学府設置 平成15（2003）年 九州大学大学院システム生命科学府設置 平成15（2003）年 九州大学先導物質化学研究所設置

	<p>平成22（2010）年 九州大学応用力学研究所及び先導物質化学研究所が共同利用・共同研究拠点に認定</p> <p>平成23（2011）年 九州大学マス・フォア・インダストリ研究所設置</p> <p>平成25（2013）年 九州大学マス・フォア・インダストリ研究所が共同利用・共同研究拠点に認定</p>
<p>設置目的等</p>	<p>昭和3年、海洋生物学に関する研究を目的として、九州帝国大学附属天草臨海実験所が設置された。</p> <p>昭和14年、科学を根本的に振興し、諸般の科学及び技術における独創的躍進を図り、また、優秀なる教育者及び技術者を養成することを目的として、九州帝国大学理学部が設置された。</p> <p>昭和17年、流体に関する工学の学理ならびにその応用の研究を目的として九州帝国大学流体工学研究所が設立された。</p> <p>昭和18年、弾性工学に関する学理及びその応用の研究を目的として九州帝国大学弾性工学研究所が設立された。</p> <p>昭和19年、木材に関する学理及びその応用の研究を目的として九州帝国大学木材研究所が設置された。</p> <p>昭和24年、新制国立大学の発足時には、九州帝国大学理学部は、九州大学理学部として承継された。</p> <p>昭和24年、産業開発に関連する工学の基礎的及び応用研究を行い、わが国生産科学の発展に寄与することを目的として、九州大学生産科学研究科が設置された。</p> <p>昭和26年、力学に関する学理及びその応用の研究を目的として、流体工学研究所及び弾性工学研究所が母体となり九州大学応用力学研究所が設置された。</p> <p>昭和28年、理学に関する学術の理論及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的として、九州大学理学研究科が設置された。</p> <p>昭和42年、情報科学の研究の振興をはかることを目的として、九州大学理学部附属基礎情報学研究施設が設置された。</p> <p>昭和46年、火山現象の基礎的研究や火山活動度の評価あるいは火山噴火予知の研究及び地震観測を目的として、九州大学理学部附属島原地震火山観測所が設置された。</p> <p>昭和54年、物質・エネルギー・情報を三本柱として、学際的分野の研究教育を行うことを目的に、九州大学総合理工学研究科が設置された。</p> <p>昭和62年、新しい機能性物質創製・開発とその利用システムに関する研究を目的として、九州大学機能物質科学研究科が設置された。</p> <p>平成5年、有機化学の反応、構造、物性、分子システム化に関する基礎的研究を目的として、九州大学有機化学基礎研究センターが設置</p>

された。

平成6年、数理学に関する学術の理論及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的として、九州大学数理学研究科が設置された。

平成8年、工学部、総合理工学研究科及び理学部（理学部附属基礎情報学研究施設を含む）等を母体として、情報科学及び電気電子工学の新領域を切り開き発展させる能力をもつ研究者及び広い視野をもつ高度専門職業人を組織的に養成することを目的に、九州大学システム情報科学研究科が設置された。

平成12年、大学院の教育研究組織である「研究科」を、大学院の教育組織としての「学府」と教員の所属する研究組織である「研究院」とに分離し、相互の柔軟な連携を図ることを目的として、九州大学学府・研究院制度を創設した。

平成12年、自然界に存在する真理を明らかにして、体系的に説明する普遍的法則を構築する学問である理学に関する教育研究を通じて自然の法則及び理学の理念・方法を教授し、国際的な場で活躍できる広い視野を持った先端的研究者、高度な能力と学識を備え社会の広い分野で活躍する高度な専門家を養成することを目的として九州大学大学院理学府が設置された。

平成12年、広範な数学の研究成果の基礎の上に多様で先端的な内容の教育を実践し、数理学を背景におく諸分野で指導的役割を果たす創造的人材を養成することを目的として、九州大学大学院数理学府が設置された。

平成12年、幅広い知的関心、国際性、倫理性を持ち、かつ情報科学及び電気電子工学の分野で高度な専門的知識と研究開発能力を備えた次世代の研究者・技術者・教育者を組織的に養成することを目的に、九州大学大学院システム情報科学府が設置された。

平成12年、物質、エネルギー、環境及びその融合分野における環境共生型科学技術に関する高度の専門知識と課題探求・解決能力を持ち、持続発展社会の構築のためにグローバルに活躍できる技術者や研究者となる人材を組織的に養成することを目的に、九州大学大学院総合理工学府が設置された。

平成15年、生物学、情報科学、工学、医学、農学の諸分野を横断的に融合した学際的な教育研究を行い、社会の多様な要求に堪えうる独創性と柔軟性に富み、情報科学と生命科学、又は工学と生命科学という二つの領域に精通したダブルメジャーの素養を持つ先端的研究者・教育者、ならびに、高度な能力と学識を備え社会の広い分野で活躍する高度な専門職業人を組織的に養成することを目的に、九州大学大学院システム生命科学府が設置された。

	<p>平成15年、物質化学における先導的研究で世界最高水準の成果を上げ、「物質化学」の国際的中核拠点を形成することを目的として、機能物質科学研究所及び有機化学基礎研究センターが母体となり九州大学先導物質化学研究所が設置された。</p> <p>平成23年、純粋・応用数学を流動性・汎用性をもつ形に融合再編しつつ産業界からの要請に応えようとする中で生まれる、未来技術の創出基盤となる数学の新研究領域であるマス・フォア・インダストリの研究を推進し、アジアではじめての産業技術に関わる数学研究の拠点を構築することを目的として九州大学マス・フォア・インダストリ研究所が設置された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>九州大学においては、自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究教育拠点となることを基本理念としており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 我が国を代表する拠点大学として、倫理観、課題探求・解決能力、確かな知識を有する創造性豊かな理学系研究者の育成の役割を果たすとともに、独創性、国際性、俯瞰性に富み、広く社会で活躍できる高度な研究能力を有する先導的な専門的職業人養成の役割を充実する。 ○ 九州大学が先駆けて導入した「学府・研究院」制度を活用して、伝統的な学問分野はもとより、基礎科学の先端領域や物質・エネルギー・生命・情報などの学際・融合領域における人材育成にも積極的に取り組み、学部・大学院教育の不断の改善・充実を図る。 ○ 既存の基礎科学及び数学の研究を継続・充実・発展させながら、最先端素粒子・原子核科学、乱流プラズマ科学、物質の創製・物性・機能の科学、地球・惑星・宇宙の科学、個体恒常性・統合生命・生物多様性保全の科学、純粋数学理論や産業・諸科学分野への数学の応用研究など、世界トップクラスの理学及び数学研究を一層推進する。 <p>世界初の学問領域として発見科学を創成すると共に、安全性の高い暗号・情報セキュリティ技術やネットワーク時代の取引制度設計の研究などで高い実績をもつシステム情報科学、生物・情報・工・医・農学などの諸科学の融合的教育研究領域としてのシステム生命科学、分子集積や分子組織化を基軸としてグリーン・ライフ分野のイノベーションの可能性へ挑戦する先導物質化学など、世界トップクラスの研究活動を更に推進する。</p>

- アジア諸国との歴史的、地理的特性を利用した国際協力を推進し、国際的に活躍する人材育成を推進するとともに、環境、資源、エネルギー、物質材料などの学際理工学研究分野において、アジアを拠点とした国際連携の先導的な理工学融合教育研究拠点形成に取り組む。
- 最先端素粒子・原子核科学、物質科学、地球惑星科学、環境動態解析学、大気・海洋物理学、気候変動学、産業界の数理的課題に光をあてた新しい数学研究領域の開拓などの強みと特色を活用して、国内外で活発な共同研究を実施するとともに、その先端研究施設・設備を広く産官学における研究者の共同利用に供し、社会的役割を果たす。
- 地震、火山、異常気象、宇宙天気など社会の要請に応える研究、数理的課題の解決に関する産業界や諸科学分野との連携、日本の暗号技術の国際標準化の促進、東アジアの越境大気海洋汚染情報の国民への広報など、国の内外社会に貢献する諸科学事業を推進している。また高大連携、次世代の科学者養成、科学実験教室、公開講座など、基礎科学の啓蒙・推進活動を広く行う。
- リカレント教育や教員免許更新のための講習教育を担当し、社会人の博士後期課程への受け入れに引き続き取り組むとともに、産業界の研究者を研究員として受け入れるなど、社会人の学び直しの機会を提供し、国や地域における科学と科学技術の発展や高等教育の充実に寄与する。